

# 実験室の利用状況について

副センター長 尾崎正伸

2025-09-24

# この1年の動き

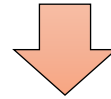
- 2号館 SIS クリッルームの ALMA 管轄化と人員異動
- 2号館大型クリッルームと2階チェックアウト室（aka ALMA資料室）の SOLAR-C 占有化を公式にアナウンス
- 3号館1階「TMT装置組立調整室」（西の大実験室）からのTMT部材移動 → 建築確認完了に向け準備完了（の筈）
  - ⇒ ・ 3号館全面稼働化
  - ・ 新規改築（クリッルーム化等）への大きな障害が解消する（筈）
- 1号館多目的実験室群の整理が少し進む
- スペースイノベーションセンター（以下SIC）の成立（9月）
  - ⇒ 物が増える（主に来年度？）、改築原資ができる？

# この先の見込み

SIC の計測機器群が来る（今年度～来年度）

- 大型3次元測定装置
- 光学測定装置

.....で、置き場所はどうするの？ 😨



多目的実験室1 & 2の配置変更でなんとかならないか？（検討中）

1. 実験室2の諸装置、什器を実験室1に移す：年内
2. 実験室1の重力波G暗幕ブースを実験室2に移設する：年度内
  - 打診中。床安定性などの問題（→要解決）が既に認識されている。
3. 大型3次元測定装置を実験室1に導入する：年度明け

**ご意見をお寄せください**

# 困っていること：「場所の枯渇」

(昨年度と同様ですが、)

利用申請に対して、長期に割り当てられる実験室がもう無い

⇒ 対策検討

- 当初目的外に無断転用されている場所はないか (→ 改めて利用申請を出してね)
- ATC の目的にそぐわない外部利用はないか
- 物置と化している場所はないか (とはいえ物置も必要)

例えば.....：多目的実験室の一部に中二階を導入して物置を捻出できないか？

**お知恵をお寄せください**

# (参考) 現在の実験室割り当て方針

ATC の存在意義（高度な開発・工作サービスの提供・支援）と実験室運用規定に立ち返る

1. まず、現状は尊重する。
2. その上で、
  - 台外には「単なる場所貸し」はこれ以上行わない
  - 有期制の徹底（延長申請はできます）
  - 利用状況に応じて割り当てのスリム化を支援
  - 既得権益（当初目的外転用など）の整理などを時間をかけて実施

# 「実験室運用規定」

2024-01-25 制定、全ユーザーを対象

- 以下の方針に基づき、割り当ての可否を検討
  - 国立天文台が推進する大プロジェクト（ATCの年度組織目標に記載のプロジェクト）であるかどうか
  - プロジェクト間のバランス
    - 既に多数の実験室を占有しているプロジェクト・個人からの申請があった場合には、なるべく現在利用している実験室を調整してもらう。
  - 優先順位：ATC、ATC外の国立天文台職員、外部
- 実験室運用委員会は利用期間終了の1年前には途中経過報告会を実施する。

# 困っていること（その2）

「所有者・所掌不明物の存在」

実は、明示的に割り振っていない部屋に「持ち主不明」  
「要否不明」な荷物が多数存在しています。

- 古いアクティビティの放置物？
- 転出者の荷物／機材？
- 退職者の放置物？

「実はいつの間にか行方不明」なんて物、ありませんか？

# 片付け協力の呼びかけ

未割振り部屋だけでなく、ユーザーに貸し出している部屋でも非効率的な使用が散見されます

- 床一面への未使用機材の展開など。

できるだけ積極的に棚等を導入して、使用面積の削減に御協力下さい。

おしまい。